

## 介護職員初任者研修シラバス

研修事業者名：日本文理大学

科目及び研修時間数	1 職務の理解（6 時間）		
特徴	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		
目標	①研修課程全体の構成と各種研修科目相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにする。 ②介護職が働く現場や仕事の内容を理解する。		
項目	時間数	講師名	内容
（1）多様なサービスの理解	3 時間	佐藤 ハツ子	①介護保険サービス（居宅、施設）について ②介護保険外サービスについて
（2）介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	佐藤 ハツ子	①居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容について ②居宅、施設の実際のサービス提供現場を具体的にイメージする ③ケアプランの位置付けに始まるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携について
合計	6 時間		

科目及び研修時間数	2 介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間）		
特徴	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を学ぶ。		
目標	①具体的事例をとおして、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違いを理解する。 ②具体的な事例をとおして、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアを理解する。 ③利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考え、理解する ④虐待を受けている高齢者への対応方法を知り、高齢者虐待について理解する。		
項目	時間数	講師名	内容
（1）人権と尊厳を	6 時間	小桐 修	①人権と尊厳の保持について

支える介護			②介護分野における ICF について ③QOL について ④ノーマライゼーションの考え方について ⑤虐待防止・身体拘束禁止について ⑥個人の権利を守る制度の概要について
(2) 自立に向けた 介護	3 時間	小桐 修	①自立支援について ②介護予防の考え方について
合計	9 時間		

科目及び研修時間 数	3 介護の基本 (6 時間)		
特徴	①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを学ぶ。 ②介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点からの支援方法を学ぶ。		
目標	①介護職に求められる専門性について理解する。 ②介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに 1 人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することの重要性を理解する。		
項目	時間数	講師名	内容
(1) 介護職の役割、専門性と他職種との連携	3 時間	佐藤 加奈子	①介護環境の特徴について ②介護の専門性について ③介護に関わるに職種について
(2) 介護職の職業倫理		佐藤 加奈子	①介護職に求められる職業倫理について ②プライバシーの保護・尊重について
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	3 時間	佐藤 加奈子	①介護における安全の確保について ②事故予防, 安全対策について ③感染対策について
(4) 介護職の安全		佐藤 加奈子	①介護職の心身の健康管理について
合計	6 時間		

科目及び研修時間数	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）		
特徴	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的，サービス利用の流れ，各専門職の役割・責務について学ぶ。		
目標	①介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として，介護保険制度の理念を理解する。 ②利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し，その生活を支援するための介護保険制度，障害者自立支援制度，その他制度のサービスの位置づけや，代表的なサービスを理解する。		
項目	時間数	講師名	内容
(1) 介護保険制度	3時間	小桐 修	①介護保険制度創設の背景及び，目的，動向について ②介護保険制度の仕組みについて。 ③介護保険制度を支える財源，組織・団体の機能と役割について
(2) 医療との連携とリハビリテーション	3時間	今給黎 晃	①医行為と介護，訪問看護について ②施設における看護と介護の役割・連携について ③リハビリテーションの理念について
(3) 障害者自立支援制度およびその他制度	3時間	栗延 孟	①障害者福祉制度の理念について ②障害者自立支援制度の仕組みについて ③個人の権利を守る制度概要について
合計	9時間		

科目及び研修時間数	5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
特徴	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと，その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し，初任者として最低限取るべきあるいは取るべきでない行動例を学ぶ。		
目標	①利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考え，相手の心身機能に合わせた配慮ができるようになる。 ②チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性や重要性を理解する。		
項目	時間数	講師名	内容
(1) 介護におけるコミュニケーション	3時間	山本 裕子	①介護におけるコミュニケーションの意義，目的，役割について ②コミュニケーションの技法，道具を用いた言語的コミュニケーションについて

			③利用者・家族とのコミュニケーションの実際について ④利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際について
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	山本 裕子	①記録における情報の共有化について ②報告・連絡・相談の留意点について ③コミュニケーションを促す環境について
合計	6時間		

科目及び研修時間数	6 老化の理解 (6時間)		
特徴	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。		
目標	高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について、その対応における留意点から、介護における生理的側面の知識を身につける。		
項目	時間数	講師名	内容
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	佐保 嘉代子	①老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について ②老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について
(2) 高齢者と健康	3時間	佐保 嘉代子	①高齢者の疾病と生活上の留意点について ②高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について
合計	6時間		

科目及び研修時間数	7 認知症の理解 (6時間)		
特徴	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則について学ぶ。		
目標	①認知症の利用者の心理や実際の行動から、介護において認知症を理解することの必要性に気づく。 ②具体的なケースをとおして、認知症の利用者を介護するうえでの原則を理解する。		
項目	時間数	講師名	内容
(1) 認知症を取り巻く状況	3時間	乙部 公香	①パーソンセンタードケアについて ②認知症ケアの視点について
(2) 医学的側面から見た認知症の基		乙部 公香	①認知症の概念について ②認知症の原因疾患とその病態について

礎と健康管理			③原因疾患別ケアのポイントについて
(3) 認知症に伴う こころとからだの 変化と日常生活	3時間	乙部 公香	①認知症の人の生活障害, 心理・行動の特徴 について ②認知症の利用者への対応について
(4) 家族への支援		乙部 公香	①認知症の受容過程での援助について ②介護負担の軽減について
合計	6時間		

科目及び研修時間 数	8 障害の理解 (3時間)		
特徴	障害の概念と ICF, 障害者福祉の基本的な考え方や介護における基本的な考 え方について学ぶ。		
目標	①介護において障害の概念と ICF を理解する。 ②高齢者の介護との違いを念頭におきながら, それぞれの障害の特性と介護上 の留意点について理解する。		
項目	時間数	講師名	内容
(1) 障害の基礎的 理解	3時間	佐保 嘉代子	①障害の概念と ICF について ②障害者福祉の基本的理念について
(2) 障害の医学的 側面, 生活障害, 心 理・行動の特徴, か かわり支援等の基 礎的知識		佐保 嘉代子	①身体障害について ②知的障害について ③精神障害について ④その他の心身の機能障害について
(3) 家族の心理, かかわり支援の理 解		佐保 嘉代子	①障害の理解・障害の受容支援について ②介護負担の軽減について
合計	3時間		

科目及び研修時間数	9 介護における尊厳の保持・自立支援（75時間）		
特徴	<p>①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護について学ぶ。</p> <p>②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p>		
目標	<p>①介護実践に必要なところとからだのしくみの基礎的な知識を学び、具体的な心身の各部の名称や機能等が列挙できるようになる。</p> <p>②利用者にとっての生活の充実を提供し、かつ、不満足を感じさせない技術を習得する。</p> <p>③死に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。</p>		
項目	時間数	講師名	内容
(1) 介護の基本的な考え方	3時間	三浦 恵美子	<p>①理論に基づく介護について</p> <p>②法的根拠に基づく介護について</p>
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	3時間	三浦 恵美子	<p>①学習と記憶の基礎知識について</p> <p>②感情と意欲の基礎知識について</p> <p>③老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因について</p>
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6時間	三浦 恵美子	<p>①人体の各部の名称と働きに関する基礎知識について</p> <p>②ボディメカニクスの活用について</p> <p>③利用者の様子の普段との違いに気づく視点について</p>
(4) 生活と食事	3時間	三浦 恵美子	<p>①家事と生活の理解について</p> <p>②家事援助に関する基礎知識と生活支援について</p>
(5) 快適な居住環境整備と介護	5時間 (内実習 2時間)	山本 裕子	<p>①快適な居住環境に関する基礎知識について</p> <p>②高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉に関する留意点と支援方法について</p> <p>※ホームヘルプサービス実習：2時間</p>
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5時間 (内実習 2時間)	佐藤 ハツ子	<p>①整容に関する基礎知識について</p> <p>②西洋の支援技術について</p> <p>※施設サービス実習：2時間</p>
(7) 移動・移乗に関連したところと	13時間 (内実習	今給黎 晃	<p>①移動・移乗に関する基礎知識について</p> <p>②さまざまな移動・移乗に関する用具とその</p>

からだのしくみと自立に向けた介護	5時間)		活用方法について ③利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について ④移動と社会参加の留意点と支援について ※ホームヘルプサービス実習：2時間 ※施設サービス実習：3時間
(8) 食事に関連したところとからだ仕組みと自立に向けた介護	6時間 (内実習 3時間)	佐藤 ハツ子	①食事に関する基礎知識について ②食事環境の整備・職に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみについて ③楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について ④食事と社会参加の留意点と支援について ※在宅サービス実習：3時間
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間 (内実習 3時間)	佐藤 加奈子	①入浴、清潔保持に関連した基礎知識について ②さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法について ③楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ※施設サービス実習：3時間
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9時間 (内実習 3時間)	佐藤 ハツ子	①排泄に関する基礎知識について ②さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法について ③爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ※在宅サービス実習：3時間
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3時間	三浦 恵美子	①睡眠に関する基礎知識について ②さまざまな睡眠環境と用具の活用方法について ③快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3時間	乙部 公香	①終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみについて ②生から死への過程について ③死に向き合うところの理解 ④苦痛の少ない死への支援について

(13) 介護家庭の基礎的理解	3時間	山本 裕子	①介護過程の目的・意義・展開について ②介護過程とチームアプローチについて
(14) 総合生活支援技術演習	6時間	山本 裕子	①生活の各場面での介護について ②ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供するながれの理解と技術の習得 ③利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得
合計	75時間		

科目及び研修時間数	10 振り返り (4時間)		
特徴	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認するとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成や学習課題の認識をはかる。		
目標	①在宅、施設のいずれの場合であっても、利用者の生活の拠点に共に居るという意識を持って、介護を行えるようになる。 ②利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について再確認する		
項目	時間数	講師名	内容
(1) 振り返り	2時間	栗延 孟	
(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2時間	栗延 孟	
合計	4時間		